



誇りをもって 語れる服を選ぶ

モデル／エシカルファッションプランナー
鎌田安里紗氏



— まず、エシカルファッションとはどのようなものか教えて下さい。

一般的には「人と地球にやさしいファッション」と説明されることが多いですね。洋服を買うとき、通常はデザインや価格、素材などで選びますよね。それだけではなく、どのような生産背景を辿ってここまで来たのか、そして自分が手放した後どうなるかという、服の「過去」と「未来」を視野に入れて選ぶ。過去の視点では、大きく分けて2つあります。1つは「素材」の選び方で、環境負荷が低い素材を使うこと。例えば、石油由来ではない素材やリサイクルされた素材を使う、それからオーガニックコットンを選ぶなどです。もう1つは、「服を作っている人」の視点。服には裁断や縫製など多くのプロセスがあります。現時点では全自動ではできず、たくさんの人の手が入って1つの商品ができます。それにも関わらず、服の値段って安いと思いませんか。また、未来の視点でいえば、



「服のたね」プロジェクトのたね

日本では半数近くの服が着られずに廃棄されていると言われています。売れ残ると多くの場合は焼却処分になります。また、コットンのTシャツ1着を作るのに約2900リットルの水が使われます。そこで新しい服ばかりでなく古着を買うのもエシカルの1つだと思います。

— 具体的にどんなエシカルなものを持っていますか。

例えば今日着ているのは「ピーブルツリー」のオーガニックコットンの服。このブランドは27年以上、アジアの人たちの暮らしを考えたフェアトレードをしています。また、ピアスはドイツの「UMIWI」というブランドで、古いスプーンやフォークをリサイクルしたシルバーでできています。

自分の持ち物を100%エシカルにするのは難しい。でも、10%でもいいので取り入れる人がたくさんいたら、社会に与えるインパクトは大きいですね。

エシカルブランドは高い、と耳にすることもありますが、それならまずは、身近なブランドで「長く大切に使えるか」を考え、選ぶ。これなら誰にでもできると思います。エシカルファッションは特定のアイテムではなく消費の態度を指す言葉でもあると考えています。

— 現在取り組まれていることは。

服の「過去」と「未来」に目を向ける機会が少なく感じていました。そこで最近実施しているのが「服のたね」プロジェクトです。参加者へコットンの種を配り、育っていく様子を各自がオンライン上でシェアします。コットンの芽がうまく出なくてもどかしくなったり、農業を使いたくなったり、色んな思いを経験するんです。秋に収穫したら皆で紡績工場に行って、糸ができる工程を見た後に、その糸を生地工場まで持っていく。服のデザインまで皆で考えてシャツを作りました。昨年度は40～50人が参加してくれました。このように色々な背景や想いを知ることができる活動をしていきたい。自分の持ちものを「誇りをもって語れるかどうか」。そうすればきっと選び方が変わってくると思います。

【聞き手：つな環編集部】

鎌田安里紗（かまだ ありさ）

徳島市出身。ファッション雑誌『Ranzuki』でモデルデビュー。プラチナムプロダクション所属のファッションモデルとして活動しつつ、エシカルファッション・フェアトレード等に関する情報発信を積極的に行う。環境省「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」アンバサダー、People Tree アンバサダー、慶應義塾大学総合政策学部非常勤講師として活躍中。